



国歌斉唱に続いて、戦没・殉職船員の鎮魂と永久の平和を祈り、黙とうを捧げる。

海洋永遠の平和を

第44回戦没・殉職船員追悼式

潮 騒

第 38 号
平成26年
8月 1日

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五
F 電話 〇三三三三四・〇六六二
海 事 セ ン ター ビ ル
F A X 〇三三三三四・〇六八二

第44回戦没・殉職船員追悼式は、初夏の晴天に恵まれた5月14日、横須賀市の神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」前で、全国各地からご遺族をはじめ立法および行政関係者、海事関係団体ならびに業界代表者、約500人が参列し例年どおり盛大に執り行われた。

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になって」の曲が、おごそかに演奏されると、参列者は静かに聴き入った。

式典は午前11時にはじまり、国歌斉唱、黙とうに続き、会長式辞、内閣総理大臣追悼の辞が捧げられた。

海上自衛隊横須賀音楽隊による、海に殉じた人々へのレクイエム（鎮魂曲）『君は帰る母なる海へ』が演奏される中、会長、遺族代表、海事振興連盟、各界代表に続いて参列者全員が白菊を供え、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を願

って、祈りを捧げた。

東京湾口を望む「戦没船員の碑」の式場で、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

式典終了後、参列者は恒例の懇親会が行われる、観音崎京急ホテルへ

マイクロバスで移動した。

初めてこのような追悼式を知り、参列した戦没船員のご遺族を交え、例年参加しているOB船員や参列者の皆さんの、再会を喜ぶ声等が随所で聞かれ、和やかに歓談していた。

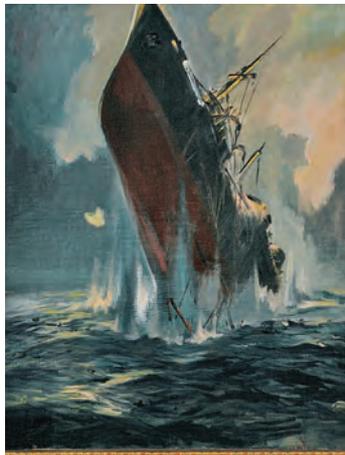
兵庫県民アートギャラリー (兵庫県民会館)

8/25~8/31

第40回

「戦時徴用船の最期」 大久保一郎遺作展

- ▽会期 8月25日①から8月31日⑤まで
- ・開館時間は、10時00分から18時00分まで。
- ・初日の8月25日①は、13時00分に開場。
- ・最終日の8月31日⑤は15時00分に終了。
- ▽会場 兵庫県民アートギャラリー
(兵庫県民会館)
- ▽主催 (公財)
日本殉職船員顕彰会



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志る丸」

大阪商船(現・商船三井)の嘱託画家だった大久保一郎画伯は、戦況が悪化した昭和17年、当時の岡田永太郎社長から「次々に沈められる船舶の最期を記録にとどめるように」言われました。

無料公開される遺作37点は、いずれも先の大戦で、そのほとんどが海の藻屑となった戦時徴用船の壮絶な最期と乗組員の悲惨な実相を伝える貴重な資料です。

入場無料

戦時徴用船遭難の記録画

神戸で開催

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展



波静かなれ とこしえに 第44回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

式典は、夏を思わせる強い日差しが照りつける、横須賀市観音崎の戦没船員の碑で、植村保雄理事長の開式の辞に続いて国歌斉唱の後、「国の鎮め」の演奏にあわせ、戦没・殉職船員6万3573名の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。顕彰会を代表して、宮原耕治会長が式辞を、国を代表して内閣総理大臣官房審議官が代読した。

◎式 辞

宮原耕治会長



本日ここに、第44回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、全国各地から斯くも多くの、ご遺族をはじめ関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

本年もまた、この碑にあらたに殉職船員2人の御霊が奉安されました。これにより、先の大戦で犠牲となった戦没船員6万609人の御霊と、海難などにより殉職された船員2千964人の御霊が、安らかに眠っております。

今日、我が国が国民の努力により幾多の困難を克服し海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、戦没・殉職された方々の尊い

犠牲のうえにあることを決して忘れてはなりません。

ここにあらためて深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがいのない肉親を失い、言い知れぬ苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の方々の労苦と心情に思いをいたし、心から敬意を表するものであります。

多くの尊い命が犠牲となった、先の大戦が終わって69年の歳月が過ぎ去ろうとしている今日、戦争体験の風化や海産産業をとりまく環境の変化などによって、ややもすれば戦没・殉職船員への思いや功績が、その記憶とともに忘れ去られようとして

◎内閣総理大臣追悼の辞

松原裕国土交通省大臣官房審議官代読



第44回追悼式に当たり、戦没・殉職船員の方々御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦においては、祖国を思い、家族を案じた6万人余りの船員の方々の尊い命が失われました。戦後も、海難や労働災害によって2千900人を超える方々がその職に殉じられ

います。

私たちは、この碑を建立した原点に立ち返り、あらためて戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と、海洋国家日本の永久の平和と安全を祈念していくことを、ここに皆様とともにお誓いいたします。

安らかにねむれ わが友よ

波静かなれ とこしえに

ご参列いただいた皆様とともに、この碑に刻まれた御霊への祈りを捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

ています。また、3年前に発生した東日本大震災においては、被災地の水産業は壊滅的な打撃を受け、海と共に生きる方々に甚大な犠牲が生じました。

今日の我が国の平和と繁栄は、多くの尊い犠牲の上に築かれています。

祖国の未来を信じて蒼海深く散った船員の方々の御霊の前で、世界に冠たる海洋国家である我が国の末永い平和と海上交通の安全への誓いを新たにするものであります。また、被災地の復旧・復興の更なる加速化を、ここに改めてお誓いいたします。

御遺族の皆様深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方々の安らかな眠りを心からお祈りします。

献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」がおごそかに演奏される中、献花が行われ



献花を捧げる宮原会長



手前から、ご遺族の錦戸さん、股張さん、小野さん、河井さん

た。顕彰会を代表して宮原耕治会長（写真①）に続いて、ご遺族を代表して戦没船員遺族の、河井賢二さんと小野恵美さん、殉職船員遺族の股張次男さんと錦戸輝子さんが白菊を捧げた。（写真②）

◎来賓・各界代表献花者（敬称略）

- 河井 賢二（戦没船員遺族代表）
- 小野 恵美（戦没船員遺族代表）
- 股張 次男（殉職船員遺族代表）
- 錦戸 輝子（殉職船員遺族代表）
- 衛藤征士郎（海軍振興連盟会長衆議院議員）
- 高木 義明（海軍振興連盟副会長衆議院議員）
- 漆原 良夫（海軍振興連盟副会長衆議院議員）
- 松原 裕（国土交通省大臣官房審議官）
- 鈴木 修（日本船主協会副会長）
- 齋藤 壽典（大日本水産会常務理事）
- 大内 教正（全日本海員組合組合長）
- 橋本 則子（全国海友婦人会会長）
- 板橋 衛（横須賀市議会議長）
- 田神 明（横須賀市副市長）
- 小内 薫（神奈川県横須賀土木事務所長）
- 森居 稔（神奈川県浦賀警察署長）
- 中田 芳基（海上自衛隊 横須賀地方総監部幕僚長）
- 鈴木 洋（海上保安庁海上保安監）
- 中村 公亮（海上保安庁 第三管区海上保安本部次長）
- 西村 敏和（国土交通省海難審判所長）
- 小幡 政人（日本海事センター会長）
- 飯田 敏夫（航海訓練所理事長）
- 岡本 信明（東京海洋大学長）



左から松原さん、高木さん、衛藤さん、澁谷さん



左から齋藤さん、鈴木さん



左から橋本さん、大内さん



左から森居さん、小内さん、田神さん、板橋さん



左から西村さん、中村さん、鈴木さん、中田さん



左から岡本さん、飯田さん、小幡さん

◎式電をいただいた方々（敬称略）

- 甘利 明（経済再生担当大臣）
- 石破 茂（自由民主党幹事長衆議院議員）
- 村上誠一郎（海軍振興連盟副会長衆議院議員）
- 漆原 良夫（公明党国会対策委員長 衆議院議員）
- 坂本 剛二（衆議院災害対策特別委員長 衆議院議員）
- 松本 純（自民党国会対策筆頭副委員長 衆議院議員）
- 小泉進次郎（内閣府大臣政務官兼 復興大臣政務官衆議院議員）
- 長島 昭久（衆議院議員）
- 神田 憲次（衆議院議員）
- 宇都 隆史（自由民主党参議院議員）
- 滝沢 求（参議院議員）
- 河野 克俊（防衛省 海上幕僚長）
- 福田 秀樹（神戸大学長）
- 藤田 稔彦（鳥羽商船高等専門学校長）

戦没・殉職船員の御霊に献杯

追悼式を終えて、観音崎京急ホテルで恒例の懇親会を開催した。遺族の方々ははじめ関係者がテーブルを囲んで、和やかに歓談のひと時を過ごした。



宮原会長

懇親会では、宮原会長の「日本の平和国家としての繁栄をさらに続けなければならぬ。そのため、私も海に働く者が、その先頭に立たねばとの思いを、今日あらたにした。今後とも私ども顕彰会の活動に対し、ご理解とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。」との、あいさつ



海事振興連盟会長
衛藤衆議院議員

に続いて、来賓を代表して海事振興連盟会長の衛藤征士郎衆議院議員は「戦後、遠ざかるほど、戦没・殉職した船員の御霊の追悼と、輝かしい功績をしっかりと顕彰していかねばならない。決して風化させてはならないとの思いを強くもっている。私も海事関係者一致結束をして海事立国日本そして豊かな日本、美しい日本、美しいふるさと、そして平和な海を守る、これを構築するために皆さんとともに、これからベストを尽くすことを御霊にお誓ひを申し上げます。」とあいさつされた。



海事振興連盟副会長
高木衆議院議員

また、海事振興連盟副会長の高木義明衆議院議員は「戦後69年、戦後世代が増えましたけれども、諸事あの大戦の本当に苦しい、身をもって味わった皆さん方、先輩の皆さん方、殉職された多くの先人たち、この思いをあらためて私は噛みしめてまいりたいと思っている。平和国家日本



松原大臣官房審議官の発声で献杯、懇親会が和やかに始まった。



が、これからも技術の人材、そしてまた平和であることの哲学、これをもって世界から信頼される国造り、誇れる日本を造ってまいりたい。その一人として微力を尽くしてまいりたいと思えます。」とあいさつを述べられた。

能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が御霊の鎮魂と功績を後世に継承するために作詞され、自らシテ(主役)となつて昭和46年5月6日の第一回追悼式で奉納されました。宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、以来今日まで観世一門により、途絶えることなく継承され、奉納が続けられています。

能楽「海霊」奉納

浦賀水道航路は、日本の経済を支える、まさに大動脈でございます。一日平均600隻の貨物船、客船が行き交う、そういう重要な観音崎に「戦没船員の碑」があります。皆様とこれから懇親でございますが、海の平和と、そして航海の安全を祈念いたしましたして、皆様と献杯を行いたいと思えます。それでは亡くなられた6万有余の御霊の安らかなんことと、そしてご遺族の末永きご健勝を祈念いたしまして献杯いたします。」と献杯のご発声を行った。



初めて参列した皆様のお話し



三宅さん夫妻

■藤沢市の三宅豊さん(73)は、妻の偕子さんとともに今年初めて追悼式に参列した。三宅さんの父芳男さんは、昭和19年11月「さんとす丸」に乗船中戦没した。犠牲になった船員は24名。当時3歳だった三宅さんは父に関する記憶がほとんどない。神戸に住んでいた一家はその後、神戸大空襲で焼けだされて、栃木に疎開した。父の最期について詳しく知る機会もなかったが、野間恒氏の『商船が語る太平洋戦争―商船三井戦時戦史―』を入手、さらに今年2月、NHKのTV番組「戦時徴用船」(2月8日放映)を偶然見て日本殉職船員顕彰会の存在を知ったという。



和野隆悦さん(左端)と宮本重博さん(右端) 宮本さんの隣が父の正男さん

「奉安者の中に父の名前を発見した時は嬉しかったです。多くの船員が国のために亡くなった。父の死を初めて社会的な側面から認識できました。厳かな式典に参列し感無量です。やっと父を供養できた気がします」と語ると、偕子さんも「素晴らしい式典で手厚く追悼していただいたことに感謝しています」と述べた。【海上の友 6月1日号より転載】

■仙台市の和野隆悦さん(73)は昨年11月、神奈川県三崎に住む宮本重博さんの訪問を受けた。和野さんの父の初五郎さんは、戦時標準船「忠洋丸」の船長として昭和20年6月に

南シナ海で戦没した。一方宮本さんの父の正男さん(93)は同船の機関長として初五郎さんとともに乗船し、奇跡的に生存していた。正男さんは長年初五郎船長を追悼したいと願っていたがかなわず、息子の宮本さんに遺族の調査を依頼。昨年やっと宮本さんと和野さんが出会うことができた。和野さんは父の最期の詳細と追悼式の存在を知ったという。

「父の膝に抱かれたことを覚えています。宮本さんのおかげで戦後70年にしてやっと父のことが分かりました。父には見守ってくれてありがとうと言いたいです」と和野さんが語ると、宮本さんも「今日は両親といっしょに追悼式に参列しました。和野さんとの出会い、初五郎船長の墓参もできました。父にとって長い戦争がようやく終わりました」と話した。【海上の友 6月1日号より転載】



やすらかな眠りからさめようとするもの 立ちあがって遠く海原を指呼するもの それらの海の男たちを慰め 鼓舞する人魚たちと 風と浪……

殉職船員2名 新たに奉安

商船や漁船などに乗船中、海難や職務上の事故などで殉職された船員の調査は毎年行われ、ご遺族の了解が得られた方のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安いたします。

全国にはまだ奉安されていない多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報の入手が困難な事に加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。また、船主あてに送付した奉安調査表が、船主の協力が得られず、遺族まで届かないことも多くみられます。奉安することにより、費用が発生することはありません。

また、遺児に援護金を支給する制度があります。(11頁参照)

本年4月17日、追悼式の前に、次の殉職船員2名(内航船)の方々の名簿を浄書し戦没船員の碑に奉安いたしました。

5月14日に執り行われた第44回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

村田 明彦 様 (宇部興産海運株)
大川 信悟 様 (丸仲海運株)

追悼式典の運営には大勢のボランティアによるご支援が欠かせません。第44回追悼式には、海事関係13団体・34人と個人協力者8人に顕彰会スタッフ5人を加えた47人が携わりました。

当日は、昨年に引き続き、夏口を思わせる強い日差しの中で、これまでの経験が生かされ、大きな混乱もなく滞りなく終了したことは、一重に皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望がよせられました。その一部を紹介します。



追悼式開式前の打合せ

■宮寺重男さん（個人協力者）
5月14日、五月晴れの下で、第44回戦没・殉職船員追悼式が開催されました。私も実行委員として、平成19年以来連続8回目の追悼式に参加させて頂きました。

追悼式開催に先立ち4月24日の実行委員会、式前夜および式当日朝のミーティング、準備等事務局のご苦労は大変であったろうと推察します。

今回、天気予報は「晴れ」とのことであり、前日から幾分楽な気分ですごさせて頂きました。宿泊組は朝6時起床、朝食、7時から饅頭袋詰め、8時に当日組と合流し、マイクロバス3台に饅頭、機材等を積込み、実行委員が分乗して追悼式会場へ向かいました。

9時からの受付開始と同時に、遺族の方がいらしたのが印象的でした。従来、11時開催前の10時半頃が受付のピークとなり、混乱状態となるのですが、今回はマイクロバスの到着時間に間があり、落ち着いて対応ができました。

国歌斉唱、黙とう、献花、能楽奉納等滞りなく12時に終了し、観音崎ホテルに於ける懇親会終了出席者を

見送り、無事実行委員の務めを終えました。

振り返ってみますと、事務局、実行委員とのコミュニケーションも良く、準備の時間等も短縮され、全体的に大きな問題も発生せず円滑に式の運営ができたと思います。

■荒谷秀治さん（個人協力者）

今年の追悼式は晴天に恵まれて良かったと思います。式典終了後の懇親会場での対応係をさせて頂きました。特に質問等は無く顕彰会への感謝の言葉を多く頂きました。この追悼式を大事に思っておられる遺族ならびに関係者各位、準備に当たられた顕彰会の方々にも多少ともお手伝いが出来たことにお礼を申し上げます。

会場でご婦人から、手紙を持参しているの、話を聞いて手記を顕彰会に届けて下さいとの依頼がありました。小生にはこの大役は無理としたい、付近を見回したところ宮原会長の方が見えたので、お願いしご婦人の手記、話を聞いて頂きました。話の内容は不明ですが、ご婦人の60数年の故人に対する思いが語られ、綴られていた事は最大の供養になったと思ひ、同時に慰霊は永遠であると感じました。

■畠山勝利さん（全日本海員組合 関東地方支部木洋会）

はじめに、戦没・殉職船員追悼式の実行委員として参加させて頂き、委員皆様のご協力の下、担当した係を無事務めることができましたことお礼申し上げます。

委員の田中善治氏に、会場をご案内いただいた際、敷地内に設置された碑の皇后陛下御歌『かく濡れて遺族らと祈る 更にさらにひたぬれて 君ら逝き給ひしか』にまつわる深い話を聞くことができました。

私は船員として船会社に入社。職場が海上である一方で、現在職場委員として当委員に参加するまで戦没・殉職船員について遠い関係のように思っていたことが今では恥かしく思えます。日本の平和には尊い犠牲があることを忘れてはならず、犠牲となった船員や船舶への追悼の意を表せる場として、追悼式の重要性を広く国民に伝えていく必要があると思ひます。

最後に、追悼式へ実行委員として参加し、貴重な経験をさせて頂いたことができました。また、追悼式を通じた思いを大切に、船員としての職務に生かしたいと思ひます。

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

▼横須賀海洋少年団 (12人) ▼東京海洋大学海事普及会 (5人) ▼全日本海員組合本部 (3人) ▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」 (2人) ・「木洋会」 (2人) ▼大日本水産会 (2人) ▼日本船舶機関士協会 ▼日本船主協会 ▼日本内航海運組合総連合会 ▼日本船長協会 ▼日本海事広報協会 ▼日本水先人会連合会 ▼海技振興センター ▼海洋会、以上各1人 ▼個人協力者 (8人) に顕彰会 (5人) が加わり、今回は47人で実行委員会を構成しました。(順不同)

■石井美枝さん(横須賀海洋少年団)
今年で3回目の参加になります。

2回とも雨の中の式典でしたので、今年初めて晴れの日となりました。高齢の参列者が多いので、やはり晴れが良いと思われました。毎回、参列者の方とお話をする機会があり、その度に、もう二度と戦争をしてはいけないと思います。

■岡部陽子さん(横須賀海洋少年団)
参列者、ご遺族の方で私にお話をして下さる方がいらっしやいました。とても感慨深いものがありました。実行委員として追悼式運営を行うことは、とても貴重な経験をさせて頂いたと思っております。至らない点が多々あったと思いますが、お世話になりました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

■遠藤泰輔さん(全日本海員組合)
詳細なタイムテーブル、委員用資料があったため、初参加にもかかわらず、混乱することなく対応することができた。

個人参加の委員の方の経験に大いに助けられたと思うので、ぜひ今後個人の方には実行委員を続けて頂きたいと思う。

■木下 彩さん(全日本海員組合)
今回は昨年に続き、実行委員として二度目の参加でした。初めて実行

委員を務めた前回よりも業務に対して余裕が持てたため、周囲の状況も把握することを意識し、他の係の方とも連携をとりながら取り組むことができました。また、今年他の実行委員や参列者の方々とお話しする機会も多く、この追悼式を行うことの大きな意味を感じ、実行委員として携わることの重みを実感しました。この歴史ある追悼式の御手伝いをすることができ、たいへん光栄に思っています。また、今年も事務局の皆様には十分な事前準備や実行委員への細やかな気遣いを頂き、感謝しております。ありがとうございます。

■佐々木涼平さん
(東京海洋大学海事普及会)

私は東京海洋大学より、海事普及会として運営に協力させて頂きました。普段は海事思想の普及を目的として活動しております。私どもの活動においても、先の戦争で多くの先輩たちが戦没されたことは、特に重要なトピックスとして研究、普及に務めております。しかしながら、我々のような若い学生にとって、散華さ



受付に集中する参列の皆さん

れた方々はあまりに遠く、学ぼうにも文献の上の、歴史上の出来事としてしか認識できておりませんでした。

今回、式典後に私は、ある参列者の方に声をかけられました。戦死された海防艦長のご遺族だというその方は、私の同級生のお婆様でした。そのお婆様とお会いしたことで6万余人戦没者、一人ひとりに悲劇があり、今につながる現実の出来事なのだとして実感致しました。

多くの時間がある学生の身分でいられるうちに、できるだけ多くを学び、この悲劇を語り継ぐことに、何らかの形で貢献できればと考えております。

■三宅 実さん(全日本海員組合 関東地方支部海友会)

滞りなく式が終了したことに、少しでもお役にたてることができたのであれば光栄です。この追悼式が多くの方に認知され、決して戦争を起ささない平和な国を作り、維持して行く誓いを永久に続ける国や国民でいたい。

■稲木隆宏さん(日本海事広報協会)
今回3度目の実行委員を務めさせて頂きました。天候も良く、目立ったトラブル等もなく式典を終えることができました。良かったです。臨時駐車場の係は直接式典に係ることはありませんが、毎年変わらずに多くの参列者の方がいらっしやるのを目の当たりにし、そんな皆様の役に立つことが少しでもできたのだと思うと、嬉しく思います。例年、臨時駐車場は2名体制での担当でしたが、今回は3名体制での担当でした。同じ担当の三宅さん、島山さんにも大変お世話になり、ありがとうございました。

やはり3名体制ですと、車がまとまってきた際などでもあわてることなく対応ができたため、良かったと思います。今回も大変貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。

戦没船員遺族 ご遺族からのお便り

戦没船員ご遺族の方々から、戦没・殉職船員追悼式に参列された思い出、感想が寄せられています。その一部をご紹介します。

■山田雅子さん（東京都立川市）
■高橋智子さん（静岡県静岡市）

追悼式に参列させて

いただいている事

第44回戦没・殉職船員追悼式に参列させていただきありがとうございます。このような追悼式がある事も知らずに居りましたが、従姉の尽力により参列出来ました事を重ねて感謝しております。

私たち姉妹は抱かれた事も笑顔も覚えていない子煩悩だったと云う父をミンダナオ島サンオーガスチン沖にて、昭和19年8月13日潜水艦の攻



懇親会で宮原会長に手紙を渡す、山田雅子さん(中)と高橋智子さん(右)

撃を受け沈没した徴用船鸚丸（みさごまる）の機関長として任務中の戦死と聞いております。

負け戦と思いつつも荒波に出て行く折の心境は愛する家族「母31歳、兄8歳、私5歳、妹2歳」を残しさぞ淋しかった事でしょう。去る2月に、Eテレで放映された「戦時徴用船 知られざる民間商船の悲劇」を視聴し大久保一郎画伯の画からも船員の悲劇と戦争の恐ろしさを強く実感し心が苦しく胸が痛みました。

このような悲劇を二度と繰り返さないことを願います。写真でしか知る事の無い父を思い浮かべ、決して戦いのない世の中である事を切望いたします。戦争を風化させない為にも、戦争を美化せず、重い言葉ですが戦没・殉職船員を掲げ、回を重ねて行かれる事を望みます。

苦勞してくれた母も兄も亡くなりました。私たち二人は父の形見の赤い珊瑚のカフスポタンを片方ずつ指輪になおして持っています。父の笑顔を想像しながら生きていきます。今日は、本当にありがとうございます。

ました。

故 澤入忠左衛門
長女 山田雅子 次女 高橋智子



山田さん、高橋さん
姉妹の従姉。
小林さかえさん

■小林さかえさん（東京都目黒区）

緑がまぶしい季節、5月14日追悼式は、例年に無い感動を味わいました。叔父「澤入忠左衛門」氏の遺児、山田雅子、高橋智子が顕彰会のご尽力で、始めて参加でき、私も「叔父さん雅子と智子を連れてきましたヨ」と献花し、碑文と海を見ながら涙がこみあげてきました。

自衛隊の吹奏楽といい、ウグイスの鳴き声、とんびの舞、穏やかな船の運航がまぶたに焼きつき、お能の舞が霞み、本当に色々ありがとうございます。

2姉妹も、3年前に亡くなった長兄と3人で参加したかったと、申し出ておりました。5年前、海友婦人会東京支部長となり、声を掛けておりましたが、参加出来ず残念でした。

海洋大学の制服姿、60余年前の主人の姿を思い出し（商船大学2回生）、お花を頂きながら「なつかしいわ」と声をかけました。遅くなりました。お礼申し上げます。

■武田綾子さん（東京都杉並区）
拝啓 今年も桜が美しい季節となりました。

先日は第44回追悼式のご案内をいただき有難うございました。残念ながら当日は何えませんが、その旨は別業にてご報告させていただきます。

思えば5年前、平成21年の第39回追悼式に始めて妹と共に出席させていただきました。深く深い感銘を覚え祈念させていただきます。

私こと、3、4年前から腰痛になり遠出は無理になり、妹も2年前に転倒から頸椎を痛め、手が不自由になっております。

出席叶わず残念ですが、戦没・殉職船員の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

また、会の運営に携わっておられる、職員の方々にお礼申し上げます。同封の金子は心ばかりですが、何かのお役に立てていただければ幸いです。

拜具

（追伸）21年出席の折の感想の歌

○観音崎の戦没船員悼む碑は南
溟に向かひ高く聳ゆる

○海に向けて能（海霊）の澄み
わたるいくさに沈みし六万の
船人

○渡されし（ノルウェー）胸章にま
さしく父の娘 海を見つむる

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成25年11月1日以降、平成26年6月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員・協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。本会の戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護などの事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員の皆様からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、支えられています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■ 賛助会員には、「法人」と「個人」があり、次の年会費をお願いします。◎ 法人賛助会費 1口10万円、◎ 個人賛助会費 1口1万円。毎年4月に会費の納入をお願いします

■ 協賛会員は「個人」にお願いしているもので、加入された翌年からは、毎年4月に、次の年会費の納入をお願いします。

◎ 協賛会費 1口3千円。

新たな賛助会員の皆様 (順不同)

- 和田行弘様 (飯能市) ○ 三尾勝様 (東京都練馬区) ○ 岡本永興様 (横浜市)

新たな協賛会員の皆様 (順不同)

- 鹿子生慎二様 (大分市) ○ 大森彰様 (千葉市) ○ 飯田洋司様 (川崎市) ○ 呉羽和男様 (名古屋市) ○ 三宅豊様 (藤沢市) ○ 本望隆司様 (さいたま市) ○ 棚池正則様 (多摩市) ○ 長谷川貞子様 (横浜市) ○ 玉田光一様 (横浜市)

寄付金 (順不同)

- 海事思想普及研究会様 (神戸市)

追悼式献花料 (順不同)

- 植松米様 (市原市) ○ 大圖富美子様 (水戸市) ○ 小林義隆様 (篠山市) ○ 阪口勝子様 (草津市) ○ 高垣宏江様 (神戸市) ○ 中村順子様 (船橋市) ○ 藤井靖子様 (府中市) ○ 川畑寛恵様 (明石市) ○ 古川昭様 (日立市) ○ 小泉義男様 (日立市) ○ 新田尚子様 (宇部市) ○ 佐藤登志子様 (新潟市) ○ 水野孝子様 (新潟市) ○ 座田重光様 (白井市) ○ 武田綾子様 (東京都杉並区) ○ 山岸信一様 (前橋市) ○ 中野昭男様 (名古屋市) ○ 北村禮子様 (東京都江東区) ○ 山本大道様 (下関市) ○ 高垣幸徳様 (神戸市) ○ 尾崎秀子様 (神戸市) ○ 福士武光様 (札幌市) ○ 小野恵美様 (東京都港区) ○ 和野隆悦様 (仙台市) ○ 岡直樹様 (市原市) ○ 棚池さつき様 (多摩市) ○ 福田陽子様 (雲仙市) ○ 小野寺麗子様 (気仙沼市) ○ 小澤恒雄様 (松江市) ○ 海事振興連盟会長衛藤征士郎様 (東京都千代田区) ○ 全日本海員生活協同組合様 (横浜市) ○ 鴨居地区連合町内会様 (横須賀市) ○ 横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所様 (横須賀市) ○ 鴨居三軒谷町内会様 (横須賀市) ○ 浪速タンカー株式会社様 (東京都港区) ○ 一般財団法人全日本海員福祉センター様 (東京都港区) ○ 前川弘幸様 (横浜市) ○ 宮越和子様 (佐倉市) ○ 海員組合職員OB全国会様 (東京都港区) ○ 高等商船学校二期生会中澤一義様 (横浜市) ○ 小田切威様 (横浜市) ○ 日本内航海運組合総連合会様 (東京都千代田区) ○ 荒谷秀治様 (横浜市) ○ 米山隆昭様 (東京都北区) ○ 全国海友婦人会様 (東京都港区) ○ 長野ヨネ子様 (東京都中野区) ○ 松本三七一様 (姫路市) ○ 豊丸漁業有限会社様 (横須賀市) ○ 住吉漁業株

- 式会社様 (三浦市) ○ 公益財団法人日本船員雇用促進センター様 (東京都中央区) ○ 一般社団法人外航船員医療事業団様 (東京都千代田区) ○ 一般財団法人日本航路標識協会様 (東京都千代田区) ○ 一般財団法人船員保険会会長坂野泰治様 (東京都渋谷区) ○ 一般財団法人船員保険会常勤監事申澤政光様 (東京都渋谷区) ○ 全国海運組合連合会様 (東京都千代田区) ○ 一般財団法人日本船員厚生協会様 (川崎市) ○ 公益財団法人日本海事センター様 (東京都千代田区) ○ 船主団体内航労務協会様 (東京都千代田区) ○ 公益財団法人水交会様 (東京都渋谷区) ○ 公益財団法人偕行社様 (東京都千代田区) ○ 日本郵船株式会社郵和会本部様 (横浜市) ○ 株式会社商船三井海翔会様 (東京都港区) ○ 荒川博様 (三鷹市) ○ 瀬川義夫様 (横浜市) ○ 都竹利年雄様 (東京都杉並区) ○ 三輪史郎様 (富里市) ○ 三宅弘様 (逗子市) ○ 横濱海員会館様 (横浜市) ○ 福岡海寿会様 (福岡市) ○ 山下義韶様 (神奈川県中郡) ○ 曾根幸雄様 (横浜市) ○ 才津俊朗様 (横浜市) ○ 小松和夫様 (横浜市) ○ 南七郎様 (新潟県岩船郡) ○ 五十嵐温彦様 (大和市) ○ 全国海員学校同窓会様 (新座市) ○ 鳥羽商船同窓会様 (鳥羽市) ○ 貝谷アキ子様 (一宮市) ○ 飯田喜久三様 (東京都渋谷区) ○ 河合八儿子様 (横浜市)

殉職船員遺族援護

ご遺族からのお便り

本紙夏号では、殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介しています。現在、遺児援護金の給付対象遺児は3人。高校を卒業した、大竹玲那さん、鎌野佑実子さん、中野真吾さん、保護者からのお便りを紹介します。



大竹玲那さん

■大竹玲那さん（三重県）
高校の思い出
思い起こせば3年前、桜が満開の中、不安と期待を胸に、伊勢の文教区の少し高台にある高校の門を初めてくぐった時の事を今でも鮮明に覚えています。
高校では、教養の授業、韓国語、毎週実施される漢字テスト、7限補習授業と独自のカリキュラム満載の中、私なりに勉強を頑張りました。そして、友達と過ごした日常生活、クラス一丸となって頑張った体育祭、毎年行われる文化祭、一泊二日の山登り研修、韓国修学旅行、長島スパワールドへの遠足など楽しかった日々が思い出されます。

この3年間で、親友と呼べる素敵な友達や、最後まで生徒の事をしっかりサポートして下さる沢山の恩師に巡り会う事ができました。私にとってこの貴重な時間は、かけがえない一生の宝物になりました。
そして4月2日、桜が満開の中、高校で得た自信と希望を胸に、大学の門をくぐりました。大学では、心理を学んでいます。将来は、臨床心理士になって、悩んでいる人や困っている人が少しでも笑顔で楽しく暮らせるようにサポートできたらいいなと思っています。
最後に、私達家族をいつも応援して頂きありがとうございます。応援して下さる皆様に感謝の気持ちを忘れず、近い将来、微力ながら人の役に立てるように頑張ります。

■鎌野佑実子さん（徳島県）
大学生になって
受験という苦しい1年が過ぎ新しい春がやって来しました。今春、私は大学生になりました。地元を離れてひとり暮らしをしています。ひとり暮らしは自由で楽しいこともありますが、慣れないことばかりで大変です。その度に母のありがたみを感じ



鎌野佑実子さん

ています。

私は言語聴覚士になりたいと思います。大学に入学しました。まだ専門的な勉強はありませんが、毎日の講義が楽しくたいへん充実した日々を送っています。また大学には様々な考えや価値観を持つ人々がおり、交流する度に刺激を受け、私を成長させてくれます。友人も増えはじめて、ますます大学生活が楽しくなってきました。でも、これからは、楽しいことばかりではなく、苦しいこともあると思います。そんな時は目標や自分を見失わず克服できる強い大人になりたいです。そして、立派な言語聴覚士になれるように努力し、徳島に胸を張って帰って来たいと思います。

■中野真吾さん（宮城県）
時間が過ぎるのは早く今年で9年になります。

お陰様で高校を卒業し現在は船に携わる仕事をしています。今の目標は仕事に早く慣れ上司の



中野真吾さん

方々の話をよく聞き1日でも早く、一人前になることと、家族に今までの迷惑をかけた分、親孝行していきたいと思っています。

■阿部悦子さん（宮城県）
本当にありがとうございます。

日々ありがとうございます。
高2になり、そろそろ進路について話し合っているところです。いろいろな検定を受け、資格をとれるように頑張るようです。体調は特に病気もせず元気に過ごしています。部活は少々お休み中です。

まだまだ、仮設住まいですが、少しずつですが、前に進んでいるかと思っています。

■大竹初美さん（三重県）

いつもお世話になってます。
新緑がまぶしい季節になってきました。4月から長女は、大学生となり新生活にとまどいながら少しずつ慣れてきているようです。通学に時間がかかるので、朝早くから夜遅くなる時も多く、高校生より忙しく大変そうですが、頑張っています。次女は中2となり、部活に勉強にますます力を入れる日々です。2人を応援しつつ毎日頑張っています。

殉職船員遺児へ 援護金を支給

当会の事業に商船などに乗船中、海難や職務上の事故で殉職された船員の遺児に返還義務のない援護金を給付する制度があります。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。

支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

殉職船員 ご遺族からのお便り(10面からの続き)

鎌野智美さん (徳島県)

つつじが今を盛りと咲きこぼれています。平成14年から26年まで長い間お世話になりました。ありがとうございました。親子3人健康で12年の歳月を送ることができました。月日が経つのは早いもので長女大学4年生、次女大学1年生になりました。貴会をはじめ、今まで私たちの支えになって下さった方々へ心より感謝いたします。

中野幸枝さん (宮城県)

お陰様で高校卒業も終え、3月末から慣れない土地で新生活を始めています。

長男が中学2年生、次男が小学校4年生からお世話になり、支えて下さった皆様には本当にお礼の言葉しかありません。二人とも社会人になることが出来、今はホッとしているところです。

本当に長い間ありがとうございます。震災の時も、気遣いをして頂きありがとうございました。

戦没船員功績等調査事業

戦没船員ご遺族や軍人ご遺族のほか、海事関係者や報道、研究者、一般の皆様から、電話やメール等で調査依頼が寄せられます。その中の一部をご紹介します。

棚池さつきさん (東京都多摩市)

先日、NHK Eテレの番組(2月8日放送『戦時徴用船く知られざる民間商船の悲劇』)を拝見いたしました。貴会の活動を知りました。

長年このような大切なお仕事をしてくださっていることに、心から御礼を申し上げます。

番組をみて初めて両親から聞いたのですが、私の祖父も戦没船員だったということです。

ただ当時、父は幼かった上に祖母も若いうちに亡くなりました。そのため、どのような最期だったのか詳しいことはわからない。とのことでした。

貴会の名簿に祖父の名前があるかどうか、お調べいただくことはできますでしょうか。

もしどこかになにか手がかりがあるようでしたら、一報いただけますでしょうか。

大変お手数をおかけいたしますが、よろしくお取り計らいください。よろしくお願いいたします。(メール)

【回答】

お祖父様が戦没船員とのこと、さっそく当会の戦没船員データを調べたところお祖父様のお名前がございました。横須賀市観音崎に建立されています「戦没船員の碑」に、お名前、没年月日が記された名簿が奉安されており、また、乗船されていた「越前丸」の沈没時の状況を記述した資料もあわせてお送りいたします。

当会では、毎年5月「戦没船員の碑」で戦没・殉職船員追悼式を挙行しています。案内状をお送りいたしますので、ご都合がよろしければ、ぜひご参列ください。

小林 悠さん (東京都目黒区)

私は、昭和20年基隆沖で沈没した「くらいど丸」の機関長の曾孫です。

今年、中学校の「研究論文」で、ひいおじいさんのこと、「戦時徴用船」のことを研究しようと思っています。小学校のとき、夏休みの自由研究で研究したときに、神戸の「戦没した船と海員の資料館」に行つていろいろ調べてみたのですが、「くらいど丸」や、「ひいおじいさん」のことはあまり資料が残っていませんでした。こちらに、「くらいど丸」や「ひいおじいさん」のことが分かる資料がありませんでしょうか？

また、祖母の話によると「19年、乗っていた船が攻撃されて沈んだ(沈みかけた?)」ところを 仲間の船に救助された」そうですが、この時乗っていた船と遭難場所が分かりませんか？ (メール)

【回答】

①ひいおじい様は、「戦没船員の碑」に、お名前、戦没年月日が書かれた名簿が奉安されています。

②「くらいど丸」の資料、昭和19年に敵の攻撃を受けた船につきましては、「くらいど丸」と同じ会社の船「楽洋丸」、「スラカルタ丸」が同時期頃沈没していますので、そのどちらかに乗船されていたものと思われまふ。この2隻の資料と「南洋海運」の遭難報告書等も、別便であわせてお送りいたします。

「戦時徴用船の最期」
大久保一郎遺作展
 8月25日～31日まで
 神戸で開催

戦時徴用船遭難の記録画展は、昭和57年に第1回が、東京日本橋の三越本店で開催されたから、今回の神戸開催で40回目となる。

平成23年8月、大阪の「なにわの海の時空館」で開催した、第37回記録画展に会場した、ドキュメンタリー番組の制作で著名な、(株)ドキュメンタリー工房の鈴木昭典代表取締役プロデューサーは、大久保一郎画伯が描いた記録画を熱心に見て、「これは大変な戦争記録だ」と衝撃を受けた。この記録画と生存者の証言をテーマに番組を作りたいと日本殉職船員顕彰会に相談があった。

記録画の公開で戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識してもらおうことと、戦没船員の顕彰を目的とする日本殉職船員顕彰会としては、記録画と生存者の証言を軸とする番組の制作に協力することにした。

大久保一郎画伯が描いた絵画を所蔵する(株)商船三井広報室の快諾を得て、第38回記録画展(平成24年・横浜)、第43回戦没・殉職船員追悼式(平成25年5月)と、4年あまりかけて収録と生存者の証言などの取材



大久保一郎画伯 (1889-1976)
 大阪商船「ありぞな丸」 宣伝用絵葉書の原画を前に。1956年 67歳

が行われた。番組制作にあたって、ドキュメンタリー工房の鈴木昭典氏は、(公財)日本海事広報協会の「海上の友」(平成26年2月1日号)に「関心から感動へ ジャーナリストと同じ視点」として、その思いを寄せている。

4年越しに放送が実現した、ドキュメンタリー番組は大久保一郎画伯の絵画を通して、徴用された船と船員たちの悲劇を伝える

【ETV特集】戦時徴用船
 ～知られざる民間商船の悲劇～
 として、2月8日、NHK Eテレで放送された。

この番組を見た戦没船員遺族から、日本殉職船員顕彰会の活動を始めて知った。父の最期の状況は、等などの問合せが多く寄せられている。

今回の神戸展でも、大久保一郎画伯が描いた油彩画(30号) 37点を公開する。多くの方々のご来場をお待ちしている。

終戦記念日献花式



終戦記念日(8月15日)に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することが出来ます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテル集合▽同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ▽同50分慰霊碑の献花台前に整列▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞▽12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。

▽同02分天皇陛下お言葉聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。

服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。

例年、役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など30人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
 電話 03・3234・0662

編集後記

▽全くの素人が「潮騒」の編集を手がけて3号目、いまだに編集に手惑い、悩みも多い。なかなか記事・構図が決まらず、縮切が迫りつついよいよこれまでの焼き直しに。記事もマンネリ化が否めないが、読者の皆様の投稿を是非お願いしたい。

▽戦争の悲惨さを実感し、平和の尊さを再認識することを目的とした、「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」。テレビ放送の反響もあり、今回の神戸では、多くの来場を期待している。